実施要領　様式５（第７条第２号関係）

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
１．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作り上げている。	○	定期的に見直しを行っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝・夕の申し送り時に唱和し、業務を行う上で活かしている。	○	朝・夕の唱和は今後も継続していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	廊下に明示しており、パンフレットにも記載し、契約の時に説明している。	○	地域に対して事業所の理念を理解してもらえるよう働きかけたい。
２．地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	犬の散歩時、気軽に立ち寄り声をかけてくれる。地元の餅つきや足湯等で交流を深め、お付き合いしている。	○	積極的に地域活動に参加し、暮らしに役立つことがないか話し合いし取り組んでいきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体会議や勉強会で全職員に周知する取り組みを行っている。自己評価は全職員で取り組んだ。	○	改善点をもとによいサービスを提供し、実践している。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施していない。	○	運営推進会議を実施したい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は取れているも、積極的ではない。	○	積極的に働きかけ、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当ホームでは経済的な虐待の実例があり、解決に至っている。研修会等で学ぶ機会はある。	○	今後も必要と思われる利用者へ情報提供し、支援していきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修等で学んでおり、ちょっとのアザや言動を確認し、防止に努めている。	○	今後は経験の浅い職員も研修等へ参加させていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分説明している。一項目ごとに家族から質問や考えを尋ね、理解・納得していただいている。	○	今後も理解・納得するよう努めていきたい。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一緒に調理をすることになっていますが、できない人には無理にお願いせず、やりたくない苦情ある時は管理者が対応している。	○	信頼関係を持てるよう努力していきたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームのたよりを発行し、日常生活ぶりを報告している。また記録ノートを居室に準備しており、面会時見ていただいている。金銭管理は、請求時、現金出納帳と領収書を添付してお知らせしている。	○	継続していきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置しているが家族からの意見や苦情は今のところ出ていない。	○	家族の意見を運営に活かしたいため、働きかけを行っていきたい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回会議を設けており、利用者の処遇の改善に反映させている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族、職員の要望を聞き、勤務調整や体制の変更を行っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	混乱をさけるため異動時、利用者へ充分説明している。時間をかけ理解していただいている。	○	離職を必要最小限に抑えるために就業規則の見直しを行っていきたい。
５．人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等に参加させ、質の向上をはかり、人材育成に努めている。復命書提出にて会議で発表させ周知させている。	○	研修、勉強会を継続していきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修先で知り合った同業者との情報交換をし、サービスの質の向上させていく取り組みをしている。	○	県および西北五のグループホーム協会の加入の継続していきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	信頼関係を持てるように常に話し合いし、悩みを話せる環境づくりをしている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	業務等に関して、考えていることを聞く為面談を行っている。資格取得をすすめている。常に向上心をもてるような働きかけを行っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談を受けたときは、家族からよく話しを聞き、また説明し現状を受け止めることに努めている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスを受けることができるように関係機関との連携を図っている。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境が変わるとなかなか馴染めないためにも、家族と本人のニーズに沿ったサービス、場の雰囲気を見学していただいている。	○	納得したサービスを提供できるように今後家族と充分な話し合いをしていきたい。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の喜怒哀楽を受容することに努めている。若いころの話し、孫の話等をし、旬の食材の調理の仕方を学んだりと、本人の得意なことを学ぶ態度で接し、共に支えあう関係を築いている。	○	今後、得意・不得意なことを聞き、入居してから参考にしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来たときは状況報告している。問題が生じた時は家族の協力を得て解決に努め、本人を支えていく関係を築いている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年に１～２回しか面会に来ない家族へはこちらから連絡し、家族を心配していることを伝え、より良い関係が途切れないように支援している。行事等には積極的に参加を働きかけている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達がお見えになった時は大歓迎している。本人の希望に応じて美容院には馴染みの店を大切にし、支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	人間関係の把握は一番難しく、トラブルが生じないように会話の中へ職員が入る等、よい関係となるよう支援している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後でも関係を断ち切らないために、夏祭りには遊びに来てほしいと家族へ招待状を出している。家族の相談に、いつでも応じられる姿勢をとっている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の考えや希望に耳を傾け、把握に努めている。家族からも情報収集を行い、本人の生活に活かしている。		
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要に応じて家族から情報をもらい、馴染みの暮らしの把握に努めている。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人に合わせた一日の生活リズムを総合的に把握するように努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族の参加は難しいため、面会の際家族の意向を聞いている。週に一回カンファレンス実施し、反映させた介護計画を作成している。	○	問題は何かを重視し、作成していきたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族全員の意見を聞くことは難しいも、変化が生じた時は会議を行い、家族へ相談して見直しを検討し、現状に即した介護計画を作成している。	○	家族へ積極的に働きかけたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の特徴や変化を具体的に個人ケースに記録している。ちょっとの変化でも見逃すことがないように介護計画の見直しに活かしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて外出等の移送サービスを支援している。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察や消防署からも協力が得られる体制である。	○	今後さらに地域の方々へ呼びかけていきたい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用する利用者は今のところいない。	○	今後、必要に応じて対応していきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の必要性を考慮し、協議し支援している。	○	今後協同していきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診支援ができており、気軽に相談できる体制が整っている。専門医受診が必要な時は、家族と話し合いし情報提供してもらい受診している。	○	協力医療機関の提携を結んでいる。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者が適切な治療が受けられるよう専門医を支援しています。	○	職員でケアカンファレンスを行った上で、問題点などを医師に持ちかけ相談している。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職と連携がとれている。２４時間体制で健康管理や医療への支援している。	○	地域の看護職は人事が変わるので気軽に相談まではいかないのが現状である。今後密に取り組んで生きたい。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医療機関と協同ができている。早期退院に向けての情報交換や相談ができる体制を整えている。病院との距離が近いことから、連絡があった時はすぐ駆けつけられます。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合などは、できるだけ早い段階で家族と話し合い、かかりつけ医の診察の結果を報告している。その結果をふまえ、職員でカンファレンスを行い、家族と本人が望む終末期に向けた統一されたケアを行っている。	○	勉強会の機会を増やし、継続していきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所そのものが医療行為ができない為、グループホームでできることとできないことを明確にし、チームとしての支援を行っている。	○	今後、さまざまなケースに対応できるように勉強会を行いたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が環境の変化に敏感であるため、入居後は面会依頼、電話する等家族へ働きかけを行っている。	○	居室作りはその人らしくするため、家族と協議していきたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1)一人ひとりの尊重**				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮して、傷つけない言葉がけや態度で対応している。個人情報の取り扱いは十分注意を払っている。職員採用時、秘密保持の契約を交わしている。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	町内の足湯へ行くなど、自分で決定する機会を作るようにしている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく、本人の希望と合わせた柔軟な支援を行っている。	○	食事の時間も本人に合わせて提供していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	おしゃれは本人の好みに合わせている。理容・美容は本人の希望通りの店に、家族が対応するかまたは職員が対応している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
51	○食事を楽しむことのできる支援 　食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は配色を考え食欲をそそるようにしている。片付けは職員と一緒に行っている。		
52	○本人の嗜好の支援 　本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒はお正月のみであり、タバコを吸う人はいない。飲み物は、冷たいもの、コーヒー等好みに合わせ曜日を決め提供している。	○	誕生日に好みのもの一品提供しており、今後も継続していきたい。
53	○気持よい排泄の支援 　排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を設けており、失敗の多い利用者は排泄パターンを記録し、定時・随時トイレ誘導している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 　曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理矢理入浴させず、利用者の意思を尊重している。熱めの方、ぬるめの方、希望に合わせて支援している。順番のトラブル防止のためくじ引きを行っている。入浴しない利用者は足浴を行って支援している。	○	暑い時期はシャワー浴を取り入れていきたい。
55	○安眠や休息の支援 　一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の運動を促している。心地よい疲労感を与えている。不眠時は付き添ったり飲み物を提供するなどの対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 　張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の役割を持ってもらうことで、生きがいや楽しみを見つけるように支援している。天気や体調に合わせ、散歩等行っている。	○	個々の特技やニーズに合わせていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者には小遣い程度ではあるが金銭管理させている。自動販売機より、お金を入れる所を説明し、買い物を楽しんでいる。	○	買い物での支払いもできるようにしたい。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があればショッピングへ出かけていますが、全員の希望に沿うことは難しい。	○	選挙投票日に地元の投票所に行きたい方への支援を継続する。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足等を行事に取り入れ支援しています。家族と出かけられることは少ない。	○	家族への参加を促すも、都合によりなかなか楽しむ機会が持てない。今後さらに働きかけていきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室より子機にて支援している。今のところ手紙の代筆はなく、はがきを提供する等支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室へ椅子を準備しており、座ってゆっくり会話できるようにしている。お茶は自由に利用できないも、提供している。体操、カラオケ等にも参加していただき、楽しんでいただいている。		
（4）安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束を行わないケアを実践している。経管栄養の利用者は、抜去防止のため、家族の了解を得て行っている。（１名）	○	拘束のないケアを今後も継続していきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていないが、玄関は自動ドアのため手の届かないところに開閉ボタンがある。	○	日中、利用者が外へ出たとき察知できるように玄関ドアにベルを設置していきたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	内外問わず、人数の確認し、姿が見えない時はトイレの確認し、必ず様子を把握するようにしている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所を確保しており、必要時随時渡し、使用後は元の場所へ置くように危険を防ぐ取り組みをしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	対応策マニュアルはある。看護師中心で勉強会を行っている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習を受けている。内部研修等を定期的に行い、対応できるようにしている。	○	今後も勉強会開催していきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練年2回実施している。緊急連絡網を作成している。	○	今後地域の協力が得られるように働きかけていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こり得るリスクについて、面会時を利用し、話し合いの場を設け話し合っている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期発見に努める為、毎日健康チェック、毎月の体重測定を行っている。ちょっとした変化でも記録に残し、情報を共有している。場合によっては医療機関へ受診している。=		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに服用している薬品名をファイルし、いつでも見れるようにしている。内服薬の変更時は常に年月日を記入し、周知徹底を図っている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一日必ず運動を促し、乳製品を与える等、随時水分補給ができるように配慮している。	○	便秘の原因や及ぼす影響について、看護師中心に勉強会を実施していきたい。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の洗浄、義歯の手入れを行っている。必ず声がけし、習慣付ける働きかけを行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し、提供している一人ひとりの状態に応じ、水分は一日に必要な水分量を確保できるようにしている。	○	食事の配膳や色彩に気を配っていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	全員インフルエンザの予防接種を受けている。荘内害虫駆除実施している。感染症マニュアル作成されており、目の届く場所に設置している。	○	常に新しい情報を取り入れ、マニュアルの見直しを行っていきたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板は熱湯消毒し、布巾はハイター漬け、冷蔵庫、洗濯機はオスバン液にて清掃し、衛生管理している。食材は賞味期限に配慮し、新鮮な食材を使っている。	○	今後も継続していきたい。できればマニュアルを作成したい。
d **（1）居心地のよい環境づくり**				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲は防護柵、入り口にはホームの看板設置している。玄関周り等には花を植えたり、出入りができるように努めている。施錠せず、誰でも自由に開放し、楽しめる工夫している。	○	今後も庭園の植物に気を配っていきたい。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの強い時はレースのカーテンを引く等、廊下、ホールには季節を感じさせる飾り付けをしている。また、職員同士の会話は利用者前で話さないよう努めている。	○	季節を感じさせる装飾を今後も作成していきたい。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみのスペースとソファを設けており、自由に過ごせるようにしている。	○	廊下にも椅子を設置していきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や茶碗、はし等は使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいる。	○	本人の好きな居室作りを家族の協力を得ながら行っていきたい。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は自動的に行われているが、朝の掃除時はまめに換気をしている。暖房の温度調整は上げたり下げたり随時行い、また、加湿器を設置している。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、段差の解消、障害物等の排除により、安全かつできるだけ自立した生活が送れるようにしている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室がわかるようにジュウタンの色を変えている。トイレはトイレマークを表示している。自立して暮らせるように環境づくりをしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外部として、庭には椅子とパラソルを設置している。花壇には花を植えたり、畑には農作物を植える等の活動できる場所がある。		

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項目		取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　　目		取　り　組　み　の　成　果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

利用者が季節を感じ、忘れないように季節の行事を大切にしている。
3ヶ月に一回誕生会を実施している。
業務よりも第一に利用者を最優先の方針である。
園庭も広く、散歩コースには最適であり、日々運動されている。
毎日、体操・カラオケを楽しんでいる。
ホールは空間があり、利用者が寛ぎやすいため、自室へ閉じこもることがない。
職員の挨拶は「笑顔でハッキリと」をモットーであり、利用者に好感を持たれている。
当ホームの最大のイベントである夏祭りには家族を招待し、共に楽しんでいる。